

「くちばしのおはなし」編

タイトル：くちばしのおはなし

推奨学年：低学年

対象教科：生活科、国語科、総合学習、理科など

教材観・児童観・指導観

本事業は千葉市内の小学校から毎年度約 50 校・3000 名が参加している。過去のアンケートから、市内小学校に在籍する児童は「動物の形態に興味」があり、「普段とは異なる授業により、特別感を味わい、刺激を受けている」ことが分かっている。飼育員や獣医師によるオンライン授業を実施したことで、児童が校外学習や各家庭で動物園を訪れた際に新たな視点を獲得し、より充実した時間が過ごせたなどの感想が得られたことから、本事業は動物への興味関心を高める効果があると考えられる。

授業目的

身近な動物の”くちばしと食性の結びつき”を知り、動物の形態に興味を持つ。
 〔 校外学習の事前学習として→動物を観察する際の視点を増やす。
 校外学習の事後学習として→体験と結びつく知識を共有し定着を促す。 〕

授業概要

ワークシートを使って鳥のくちばしについて考え、描き、学びます。1年生の国語教材「くちばし」を学習した子どもたちが、より学びを深められる内容です。

指導計画

	授業の流れ	児童の反応
導入 (5分)	・講師自己紹介、動物公園の紹介 ・「鳥の口には何が有る？何が無い？」	「くちばしがある！」 「歯はないんだね」
展開1 くちばしの形状と食性 (15分)	・鳥類がくちばしをどのように使うか紹介 ・くちばしの形状が「食性」と関わりが深いことにふれる →「この食べ物を食べるためには、どんな形がいいと思う？」 ・ワークシートの説明(食べ物をヒントに、くちばしの形状を予想する) →食性の異なる3種(肉・魚・微生物)で実施	「食べるだけじゃないの？」 「曲がったくちばしは何に使うんだろう？」 「こんな形だったっけ？」 ・ワークシートに取り組みながら口々に意見を言

	→画面越しに児童が取り組んだワークシートを見せてもらい、コメントする	い合い、見せ合う。
展開2 ズーム アップ (5分)	展開1で紹介された一部の鳥にフォーカスし、くちばし周辺の器官や動きを映像で確認 →「よく見るとこのようにくちばしを使っていたんだね。だからこの形が役に立つんだね。」	「近くで見るとこうなってるんだ」 「もう一回見たい！」
まとめ (5分)	くちばしと食性の結びつき、飼育員のおすすめのくちばし、来園時の観察ポイントを紹介	「他の動物のくちばしはどんな形だろう？」
質疑応答 (10分)	・ZOOMの挙手機能を使って講師と各学級で会話し、授業中に出た疑問の解消 ・動物園や仕事内容についての質問にも対応	「〇〇のくちばしはどんな形ですか？」

評価の観点

- ① くちばしと食べ物に直接的なつながりがあることを知る（知識技能）
- ② ワークシートに取り組み、自らの考えを表現する（学びに向かう力・人間性）
- ③ 食性や生息地から、くちばしの形状を予想する（思考・判断・表現）

板書計画

くちばしのなか なにがある？




ハイエナ エジプトハゲワシ

とりには は が ない！



くちばしのはたらき1 たべる



くちばしを そうぞうして かこう



イヌワシ

すんでいるところ
：やま

たべもの
：うさぎ、へび